

高等学校教育を取り巻く環境と課題

- ◇本格的な人口減少・少子高齢化に加え、ICTやAI等の情報技術の急速な発達をもたらすグローバル化のさらなる進展に伴い、今の大人が経験したことのない、変化が激しく予測が難しい時代を迎えている。
- ◇Society5.0時代においても、子どもたちが自らの幸福を追求し、生き生きと活動できるよう、変化に柔軟に対応し、新たな社会を創造し、先導する力を育成することが必要である。
- ◇高等学校卒業後も大学や社会において学びを深めたり、実社会において様々な課題に接したりする際に必要となる力として、文系・理系など既存領域に囚われることなく、多分野にわたり知識や技能を総合的に活用できる能力を養うことが求められている。

高等学校で育成する力

- ◇思いやりや寛容の心を持ち、人格の形成を主体的に求め続ける力
- ◇他者と協働しながら身の周りの社会的な課題に対応できる力
- ◇多様な価値観を受け入れたうえで物事を創造できる力
- ◇困難な状況に接しても、しなやかに対応できる力
- ◇正確に情報を受け取ったうえで自分の考えを論理的に発信できる力
- ◇主権者として社会を構成するために必要な社会人基礎力
- ◇自国や地域文化への正しい知識に基づき、国際社会の中で対応できる力

県立高等学校教育のあり方

○未来への道を切り拓く力を育成するための方策

- ・すべての教育活動においてICTの活用を推進するとともに、遠隔授業センターの設置等により、学校の規模を問わず個に応じた選択科目等が設置できる手法を全県規模で研究。
- ・Society5.0時代において問題解決力や想像力を備えた人材の育成については、兵庫型「STEAM教育」におけるカリキュラム検討を踏まえた、新たな学びを展開。
- ・特別な支援を要する生徒や外国籍生徒等については、通級制度や外国人特別枠制度導入校を中心に、より効果的なカリキュラム開発や教育相談との連携を強化。

○教育システムの充実・改革

- ◇全日制普通科学年制（特色類型・コース）、特色ある専門学科、職業学科
 - ・普通科の特色化を進めるうえで、生徒の興味や必要性に応じた学びの展開が、特に必要である場合には、学年制から単位制への改編を含めて検討。
 - ・普通科の特色ある専門学科への改編や、特色ある専門学科の内容を見直すにあたっては、文理融合による新技術を活用した探究活動を軸とした学科や、地域の教育資源を活用して地域課題の解決に取り組む学びを軸とした学科等の新設を検討。
 - ・コースについては、専門性の高さや生徒の学習ニーズ等を踏まえ、特色類型または専門学科への改編を検討。
 - ・職業学科における、技術革新に対応した学びの充実を目的とした、先端機器等を活用した先進技術の習得を効果的に進めるための教員研修や外部人材の活用等について検討。
- ◇定時制・通信制
 - ・可能な限り個別最適化された学びを実現するため、ICTによる遠隔授業の展開や多彩な学びを提供できる学びのコンテンツ整備等の検討。

○通学区域・入試制度

- ・基本的には現行制度を維持すべきであるが、県境や学区の境に位置する地域について、選択肢が拡大していない等の課題も指摘されていることから、制度の全体的なあり方を、中長期的に検証していくこと。

○県立高等学校の活力を維持するための望ましい規模と配置のあり方

基本的には、普通科及び総合学科で6～8学級、職業学科の単独校で3学級以上

- ・少子化の進行を踏まえ、通学できる範囲に高等学校が多く設置されている都市部においては、生徒の学びの多様性を保障するため、発展的統合を含め、望ましい学級規模を維持する方策を検討。
- ・地方部においては、通学できる範囲に唯一となった高等学校もあることから、望ましい学級規模に満たない高等学校について、地域の支援を得ながら存続可能性の有無を含めて検討。その際、全国募集の拡充、教員の加配、学級編制基準の弾力化、ICTを活用した遠隔授業、スクールバスの開設、寮の設置、高等学校の市町立化を含めて、あらゆる方策を視野に入れて検討。
- ・総合学科については、望ましい規模に満たない場合は、生徒の興味や必要性に応じた系列の設置が困難であることから、近隣の高等学校との統合による規模の確保が難しい場合には、普通科または職業学科への改編を検討。
- ・職業学科については、小学科ごとに専門性の高い学びを展開していることを認識したうえで、地域産業の変化に対応できる学科のあり方を、地域の支援を得ながら検討。
- ・定時制・通信制の規模と配置については、個別のニーズへの対応の必要性を踏まえた、多部制高等学校の新たな設置等の可能性も視野に入れながら、各課程の機能・役割を発揮するためにふさわしい規模と配置のあり方を検討。